脳動脈瘤塞栓術における逸脱コイル回収症例の検討

Retrieval of migrated coil and stretchedcoil during aneurysm embolization

狩野 忠滋[1)]　赤路 和則[1)]　高山 洋平[3)]　志藤 里香[1)]　木村 浩晃[2)]　神澤 孝夫[3)]
谷崎 義生[1)]　美原 盤[2)]

1)美原記念病院 脳神経外科
Department of Neurosurgery, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

2)美原記念病院 神経内科
Department of Neurology, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

3)美原記念病院 脳卒中部門
The Cerebrovascular Division, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

[はじめに]脳動脈瘤塞栓術では、時にコイルが瘤外に逸脱し回収を余儀なくされることがある。当施設では2004年4月から2014年4月までに脳動脈瘤塞栓術を225件施行した。その内3例（1.3%）でコイルが逸脱したためスネアにて回収を施行した。各症例を提示する。

[症例1]44歳女性、未破裂右内頚動脈瘤、コイル挿入中のカテーテル操作にて直前に挿入したGDC10 360 soft SR 3mmx6cmが瘤外に逸脱しM3まで移動した。Prowler select plusを誘導しGoose neck snare2mmを用いて回収した。

[症例2]51歳男性、破裂左椎骨動脈解離性動脈瘤、PICA遠位にて動脈瘤ならびに母血管閉塞を施行した。閉塞確認のため撮影を行うと、最後に挿入したTarget herical ultra 3mmx4cmがPICA起始部に逸脱していた。Prowler select plusを誘導してGoose neck snare 2mmを用いて回収を試みたが困難であった。4mmのスネアを用いたところ回収が可能であった。

[症例3]66歳男性、未破裂左中大脳動脈瘤、フィリングの過程にてTerumo VFC 3-6mmx6cmを挿入したところ、コイルがアンラベルを起こした。Prowlerselect plus内に挿入したGoose neck snare 2mmをコイル挿入に使用していたEchelonに沿わせて進めた。ProwlerSTRがサイフォンから遠位に挿入困難であったが、Echelonを近位に移動させることで回収に成功した。遠位誘導のためにはカテーテルはSTRよりも45度の方がよい可能性が考えられた。

[まとめ]3症例ともに、Prowlerselect plusとGoose neck snareを用いることでコイルの回収に成功した。脳動脈瘤塞栓術ではコイル回収デバイスの準備が必要であり、その使用法について熟知しておくことが重要である。